

06 ジャーナリズムの現在Ⅱ 「災害と報道」

第1回 「記者も犠牲になった―雲仙普賢岳・火砕流の教訓」

毎日新聞地方部デスク 宮本勝行

▽惨事の発生まで

- ・「島原大変 肥後迷惑」～何より眉山崩壊を恐れた住民
- ・ 専門家も想定外の火砕流発生
- ・ 発生から発表まで1日の専門家の議論
- ・ 当時の火砕流への理解
- ・ 火砕流取材
- ・ 6月3日午後4時8分まで

▽ビデオ解説

▽被災後の取材

- ・ 6月3日午後4時8分から
- ・ 次々と遺体で見つかる行方不明者
- ・ 力尽き亡くなる負傷者
- ・ 変わらぬ遺族の悲しみ

▽検証

- ・ 少なかった火砕流への知識
- ・ 危険を十分に伝え切れていたか
- ・ 生かせなかった情報
- ・ 被災を免れた社は
- ・ 体を張っても低い住民からの評価
- ・ “逃げ出した” 一部マスコミ

▽教訓をどう生かすか

- ・ その後の取材方針
- ・ 避難長期化から復興へ
- ・ 毎日新聞のこだわり
- ・ 報道が変える被災地・者支援

・雲仙普賢岳の位置

長崎県の島原半島にある雲仙岳最高峰で90年の噴火当時の標高は1359m。地元では普賢さまと呼ばれている。マグマは粘性が高い。ちなみにハワイ・キラウエア火山のような場合は、粘性が低く、溶岩流となって「さらさら」と流れる。現在は溶岩ドーム「平成新山」の方が高くなり、1482mとされる。最高時は1488mだった。



・過去の普賢岳の噴火歴史

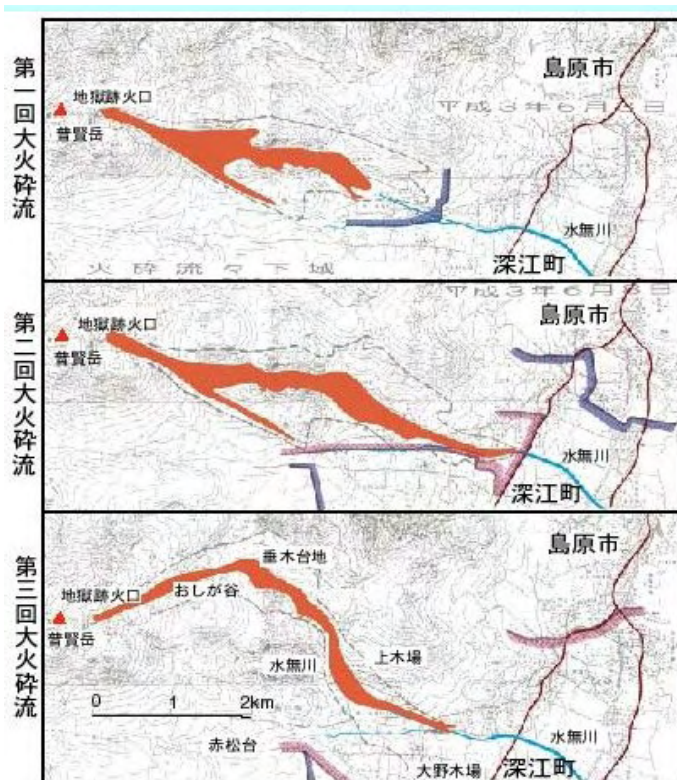
90年以前は有史で2回にわたって噴火。1792年の噴火では、2月に溶岩が流れ出した。ただし、速度は1日で20～30km。当時、溶岩流を見る客でにぎわい、藩が禁止令を出したほどだった。やがて3月ごろから地震が頻発。旧暦4月1日午後8時ごろ、眉山が直下の地震で大崩落。崩れた土砂は約3億立方m(東京ドーム124万立方mの約242個分)とも、約4.4億立方m(同約355個分)とも9億立方m(同約726個分)ともいわれる。海岸に流れ込んだ大量の土砂で津波が発生し、対岸の熊本県と合わせて約1万5000人が死亡。「島原大変肥後迷惑」といわれる大災害を起こす。日本の火山災害史上、最大の被害とされる。今も海底には長さ約3.5kmに渡って、当時の土砂の流れが山のように残っているという。普賢岳の噴火活動との因果関係は不明だが、1990年の再噴火後に市民が最も恐れたのはこの眉山崩壊だった。

・当時の報道をとりまく状況

デジタルカメラはほとんどなし。フィルムが当たり前。さらに、カラーフィルムの自動現像機、カラー電送機が普及し始め、モノクロからカラー多用への移行期だった。普賢岳災害では、新聞各社が記事とともにカラー写真で競った。テレビは当然、「絵」で勝負していた。携帯電話もあるにはあったが、機材は大きく、長時間使用はできなかった。基地局も普及していなかったため使える範囲も限られていた。記者や取材本部との連絡には主に無線が使われていた。電話ほど機能性はなし。

・火砕流とは

高温の火山灰や溶岩がガスと混然一体となって山を駆け下る現象。温度は数百度、速度は時速数十から数百kmに達する。火山灰や溶岩などの主体とその上部の高温ガス「サージ」で構成される。溶岩が砕けて中のガスが放出されるため、サージはどんどん発達し、主体より先を走ったり火山灰を巻き上げながら上昇、キノコ雲のように見える。サージの方が恐ろしく、物をなぎ倒して焼き尽くす。普賢岳では、多くの人が亡くなったために「大火砕流」と呼ぶが、火山学的に言えば小規模とされる。



※第1回は91年6月3日、第2回は同6月8日、第3回は同9月15日

・土石流について

噴火で山に積もった大量の火山灰や土砂が雨や溶岩による融雪などで流れ出すこと。家やそれ以上に大きい岩石を巻き込みながら、洪水のように山を下る。重いため一番低いところを流れやすい。だが、詳しい発生メカニズムはよく分かっていない。

・雲仙普賢岳の噴火災害

【死者・不明者】

91年6月3日の火砕流で43人。93年6月23日の火砕流で1人。計44人。うち報道関係者は▽毎日新聞3人(カメラマン、技師、運転手)▽KTN(テレビ長崎)3人(カメラマン2人、運転手)▽日本テレビ2人(カメラマン、ビデオエンジニア)▽NHK2人(カメラマン、ライトマン)▽KBC(九州朝日放送)2人(カメラマン、助手)、テレビ朝日1人(記者)▽日本経済新聞1人(カメラマン)▽読売新聞1人(カメラマン)▽フォーカスカメラマン(毎日新聞OB)1人の16人。ただし、亡くなったタクシー運転手4人は、日テレ、テレ朝クルー、日経、読売がチャーターしており実質は20人ともいえる。

その他は、消防団員12人、火山学者2人とその案内の学者1人、警察官2人、選挙のポスター掲示板撤去中の2人、農作業中などの人5人(1人は93年の火砕流による)

【負傷者】12人

【建物被害】火砕流や噴石 819棟、土石流 1692棟の計 2511棟

【被害総額】直接 747 億円 間接 1552 億円の計 2299 億円(特徴としては、日本で初めて市街地に立ち入りを法的に禁じた警戒区域が設定され、それによる被害が生じた)

【避難者最大】1万 1012 人(91 年9月 10～15 日)

【火砕流】(振動波形 30 秒以上)9432 回(被害をもたらしたのは7回)

【土石流】62 回(被害をもたらしたのは 39 回)

【溶岩総噴出量】2億 4000 万立方メートル(東京ドーム約 194 個分)。うち溶岩ドームとして残るのは1億立方メートル(同約 81 個分)。そのドームは長さ東西 1250メートル、南北 600メートル、最大の厚さ 333メートル。最盛期には1日 30 万～40 万立方メートルを吐き出した。つまり3～4日で東京ドームができる計算。

・1990 年の噴火からの流れ

11月17日に再噴火。小康状態を保ったが、91年2月に別の火口が噴火して火山活動が活発化。たまった火山灰で5月15日に初の土石流が発生。20日にマグマが姿を現す。過去の噴火の際より溶岩の粘度が高く、溶岩流とはならなかった。95年まで顕著な活動を続ける。

主な経緯は次の通り(土石流は極力、省略)

90年11月17日午前7時ごろ 198年ぶりの噴火確認

91年2月12日午前8時ごろ 再噴火。屏風岩火口が出現

4月8日 3度目の噴火。その後、地獄跡火口に新噴火口確認

4月30日 4度目の噴火

5月15日 初の土石流

5月20日 地獄跡火口に溶岩ドーム出現。翌日には二つ、翌々日には四つに割れる。23日にはバラの花びら状に

5月24日午前8時すぎ 初の火砕流。ただし正式発表は翌日夕方

5月26日 火砕流で初の負傷者。避難勧告

6月3日午後4時8分 「大火砕流」。これによる死者・不明者は43人

6月7日 島原市が初めて警戒区域を設定

6月8日 深江町が初めて警戒区域を設定。午後7時51分に「大火砕流」。民家多数炎上

6月11日 爆発音とともに噴石が飛ぶ
 6月12日 雲仙岳測候所が「山体の膨らみが確認されている。今まで経験していない違った噴火も考えられ、半島全域で注意を」と急報し、島原市内を離れる報道陣も
 9月15日 「大火砕流」。大野木場小学校を全焼。
 9月30日 雲仙岳災害基金運用開始
 92年12月 鐘ヶ江管一氏から吉岡庭二郎氏へ島原市長交代
 93年6月23日 北東側斜面に火砕流発生。死者1人
 7月19日 火砕流が国道57号を越える
 95年1月6日 噴火以来初めて火山性地震の発生ゼロ
 2月 溶岩ドームの成長が停止
 5月25日 火山噴火予知連絡会は「噴火活動はほぼ停止状態」との統一見解を発表
 12月12日 陸上自衛隊島原災害派遣隊が撤収。活動は通算1658日
 96年5月20日 普賢岳溶岩ドーム出現からまる5年を機に、島原市と小浜町(現雲仙市)は溶岩ドームを「平成新山」と命名
 5月30日 九州大学島原地震火山観測所の太田一也所長が「普賢岳の噴火活動は終息した」との見解を示す。
 6月3日 「噴火活動の終息宣言」。大火砕流惨事からまる5年。長崎県、島原市、深江町が災害対策本部を解散

・マスコミへの評価(東京大学新聞研究所のアンケート調査より)

問33. 今回の災害では、全国各地からたくさんのマスコミが島原市や灘工町にきましたが、そのときの取材についておたずねします。あなたやあなたのご家族はマスコミから取材を受けましたか。

	島原	深江	全体
自分自身が直接取材を受けた	44.8	34.0	41.5
家族が直接取材を受けた	26.0	25.0	25.7
他の人が取材をうけている現場に居合わせた	24.3	26.7	25.1
自分の回りでは取材はされなかった	21.1	19.8	20.7
DK, NA	4.9	10.4	6.6
計	654	288	942

問34. (問33で1～3と答えた人だけお答えください)そのときのマスコミ関係者の取材や態度や様子をどう思いましたか。次の中から1つだけ選び、○印をつけてください。

	島原	深江	全体
非常に感じが悪かった	8.4	7.9	8.3
やや感じが悪かった	10.5	6.9	9.4
どちらともいえない	44.9	44.8	44.8
やや好感がもてた	26.1	29.1	27.0
非常に好感がもてた	7.4	8.9	7.8
DK, NA	2.7	2.5	2.6
計	486	203	689

問36. 次に、マスコミの報道についてお聞きします。あなたは災害の状況がマスコミでどのように報道されていると感じていますか。次の中から1つだけ選び、○印をつけてください。

	島原	深江	全体
実際の状況よりそうとう大げさに報道されている	4.9	5.6	5.1
実際の状況より少し大げさに報道されている	26.5	24.3	25.8
実際の状況をほぼ正確に報道している	58.6	61.1	59.3
その他	3.7	3.8	3.7
DN, NA	6.4	5.2	6.1
計	654	288	942

問37. あなた自身がマスコミにもっと報道してほしいと思うのはどういう事ですか。次のなかからいくつでも選んで、○印をつけてください。

	島原	深江	全体
火山活動の見通す	74.2	71.5	73.4
土砂流の危険性	50.3	42.0	47.8
眉山の危険性	38.8	21.9	33.7
被害地域(警戒区域)の現状	64.2	51.0	60.2
避難者の様子	14.8	20.8	16.7
被害者の経済的被害	29.4	40.3	32.7
まち全体の経済的被害	22.6	27.8	24.2
警戒区域の設定や解除	37.3	40.3	38.2
仮設住宅や融資など	23.2	28.1	24.7
補償についての国・県などの考え方	67.1	65.3	66.6
災害復旧についての国・県などの考え方	64.4	61.8	63.6
義損金や義損物資の到来状況	21.7	26.0	23.0
復旧や再建に向けての市民の動き	29.2	25.0	27.9
その他	1.2	1.0	1.2
計	654	288	942

問38. 火山噴火については、臨時火山一情報と火山活動情報がありますが、あなたは噴火の警告として、どちらの情報軒甜緊急性が高いと思いますか。次の中から1つだけ選び、○印をつけてください。

	島原	深江	全体
臨時火山情報	54.1	50.3	53.0
火山活動情報	16.1	20.1	17.3
どちらも同じくらい	25.5	27.4	26.1
DK, NA	4.3	2.1	3.6
計	654	288	942

問39. ところで、今回の災害にさいしては、いろいろな組織や団体が活動しましたが、あなたは、それぞれの組織や団体の活動をどう評価しますか。A～Jのそれぞれについて、1～6の6段階の評価でご記入ください。

簡単にいうと、「非常によくやった」「まあよくやった」の回答合計は、
①地元消防団77②市役所・町役場69③火山学者・測候所67④ボランティア64⑤自衛隊58⑥自治会・町内会49⑦長崎県47⑧マスコミ34⑨国3の順。

・NHK 放送文化研究所の調査(放送研究と調査 92 年1月号)
(1038 人対象)

6・3以前の火砕流への危険認識

「大変危険なものと思っていた」	15.0
「ある程度危険なものと思っていた」	30.6
「あまり危険なものとは思っていなかった」	20.8
「ほとんど危険なものとは思っていなかった」	6.0
「火砕流については知らなかった」	26.9

「危険と思っていた人」へ、なぜ危険と思ったかの質問(複数回答)

「やけどをしたり、山火事が起きたり、実際に被害が出始めたから」	74.5
「火砕流が日を追って大きくなったから」	61.0
「テレビやラジオ、新聞が危険だと伝えたから」	40.3
「市、町や警察、消防が危険だと言っていたから」	18.4

以下略

テレビの取材方法について

普賢岳災害で取材を受けたか

「自分自身が取材された」	13.4
「家族が取材された」	7.1
「取材が行われているのを見たことがある」	45.9
「されたことも見たこともない」	30.0

残りは無回答

※警戒区域住民に限れば、「3人に1人」は取材を受けたことになる

「取材を受けた」「見た」人への質問。取材者の態度は

「大変に不快」	7.7
「やや感じが悪かった」	14.4
「適切な態度だった」	35.8
「どちらとも言えない」	41.2
残りは無回答	0.9

不快だった理由

「相手を見下した横柄な態度、言葉の暴力」「局名も名乗らず突然マイクを突きつけた」「避難する途中に呼び止められ、しつこくインタビューされた」「家族を亡くし、家を焼かれて悲しみに打ちひしがれている時に、いまのお気持ちは、などと無遠慮なインタビューを受けた」ーなど

